

2025年度に安芸高田市立中学校で
使用する教科用図書採択に係る

答申



安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会
2024年7月31日（水）

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| 教科名 | 国語 |
|--------|-------|
| 第 1 推薦 | 38 光村 |
| 第 2 推薦 | 2 東書 |

(国語) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|-----------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、本編に情報活用に係る単元を設定し、「情報と論理の学び」の前後に、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」、「読むこと」と「書くこと」の活動に関する教材を掲載している。 書籍紹介数 3 学年合計で 312 冊と多数あり充実している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 進行の仕方を工夫したり、互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意を形成するよう示している。 第 2 学年の説明的文章の総ページ数 18、図表等の掲載数 14 (図 4、グラフ 3、写真 5、絵 2) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて文章の種類を選択し、構成や表現を工夫することを目標として示している。 振り返りには、目標に対して学んだことを振り返るように促している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 第 1 学年本編総ページ数 143、「話すこと・聞くこと」12、「書くこと」18、「読むこと」113 となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 「文法解説」「資料編」として全学年に示している。 |
| 15 三省堂 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、本編に情報活用に係り、「情報を関係づける」という単元を設定し、教材の掲載前に、情報の扱い方について説明している。資料を 1 つ以上掲載している。また、同単元内に「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」の活に関する教材を掲載している。 書籍紹介数 3 学年合計で 280 冊 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを広げたり深めたりするよう示している。 第 2 学年の説明的文章の総ページ数 19、図表等の数 14 (図 6、写真 5、グラフ 3) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 文章を読み合って、お互いの表現のよい点を見つけることを目標として示している。 目標で示した項目を「思考の方法」を用いて学習し、それについて自分の言葉で振り返るようにしている。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 第 1 学年本編総ページ数 168、「話すこと・聞くこと」14、「書くこと」28、「読むこと」126 となっている。 |

| | | |
|----------|------|---|
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「文法のまとめ」「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」として全学年に示している。 |
| 17 教出 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、本編の情報活用に係る単元、第1学年「情報を得る」、第2学年「情報を捉える」、第3学年「情報を共有する」を設定し、第1・3学年は教材を4つ、第2学年は教材を3つ掲載している。 ・書籍紹介数 3学年合計で258冊 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進行の仕方を理解し、互いの考えを尊重しながら話し合い、結論を出すよう示している。 ・第2学年の説明的文章の総ページ数18、図表等の数22（図5、写真16、絵1） |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて題材を決め、伝えたいことを明確にして記事にすることを目標として示している。 ・目標で示した項目を「学びナビ」を用いて学習し、「振り返り」で確認するよう示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年本編総ページ数149、「話すこと・聞くこと」12、「書くこと」13、「読むこと」124となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉と文法（解説編）」「言葉の自習室」「漢字」として全学年に示している。 |
| 38 光村 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、本編の情報活用に係る単元「情報×SDGs」を設定し、教材を1つは掲載している。また、情報整理の方法として「情報整理のレッスン」、情報と情報の関係を捉える「思考のレッスン」を設定し、情報の扱い方と関連させた「書くこと」の活動に関する教材を掲載している。 ・書籍紹介数 3学年合計で340冊と多数あり充実している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え方を認め、互いの考えを生かしながら話し合い、合意形成を旨とするよう示してあり、工夫がみられる。 ・第2学年の説明的文章の総ページ数24、図表等の数28（図8、写真8、グラフ6、絵6） |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが効果的に伝わるように、表現のしかたや論理の展開を工夫し、助言し合うことを目標として示している。 ・目標で示した項目を「学びのカギ」を用いて学習し、「振り返り」で確認するよう示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年本編151、「話すこと・聞くこと」18、「書くこと」23、「読むこと」110となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・学びを深める「文法」「漢字」「国語の力試し」「語彙ブック」「資料編」として全学年に示している。 |

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| 教科名 | 書写 |
|--------|-------|
| 第 1 推薦 | 38 光村 |
| 第 2 推薦 | 2 東書 |

(書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主たる特徴 |
|-----------|------|---|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や執筆法、用具の使い方を示す写真・イラスト等を、見開き 2 ページで一覧できるように示している。大筆、小筆、鉛筆の持ち方を示している。墨のすり方を写真とイラストで示している。 紙面構成は、見開き 2 ページで、右ページに学習のポイントを示し、左ページ全面に主教材の文字筆使いを示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 楷書と行書の使い分けについて、「1 見つけよう」で、インタビューのメモと試験の申込み書を書く場面を示し、楷書と行書のどちらで書くかを考えるようにし、「2 確かめよう」で、手紙を書くには楷書と行書のどちらで書くかを考えるようにし、「書写のかぎ」では、楷書と行書の特徴や使い分ける際の観点を示している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「書写の学習の進め方」では、基本となる学習の流れを示している。 「3 生かそう」や「生活に広げよう」では、学んだことを他の文字や生活の中で生かすための活動などを示している。 「振り返ろう」では、学習を通して理解したことを自分の書いた文字で振り返ったり、学習してきたことをどのように活用したかを話し合ったりする活動を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数 81 ページ+折込 16 ページ、資料編 46 ページで構成している。 毛筆教材数は 25、毛筆教材を扱うページは 40 ページ、硬筆記入欄 19 ページ。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 第 1 学年「はじめに」の二次元コードから、既習内容や姿勢と筆記具の持ち方、基本の点画の書き方等が確認でき、学年末の「書写テストに挑戦！」の二次元コードから書写テストに回答があり、ICT を活用しやすい。 |
| 15 三省堂 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や執筆法、用具の使い方を示す写真・イラスト等を、姿勢・筆の持ち方で見開き 2 ページ、筆の運び方・用具の扱い方を見開き 2 ページ、姿勢と構え・鉛筆の持ち方を右側 1 ページの合計 5 ページで示している。大筆、小筆、鉛筆の持ち方を示し、筆の運び方をイラストで示している。 紙面構成は、見開き 2 ページで、右ページに書き方のポイントを示し、左ページ全面に主教材の文字を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 楷書と行書の使い分けについて、「①」では、場面に応じて、楷書と行書のどちらで書くとよいか、理由も含めて話し合うようにしており、「②」では、選択した書体で実際に書く欄を設けている。書体を使い分ける際に意識することとして、「読み手」「目的」「状況」という観点を示している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「学習の流れ」では、単元における学習の流れを示し、「教材の構成」で示している縮小した教材と照らし合わせることで学習の流れの具体を想起させるような構成となっている。 「書き方を学ぼう」で身に付けた書き方のポイントを意識して毛筆で書き、「書いて身につけよう」では学びを生かして硬筆で書くことで、学んだことの定着を図るような構成となっている。 単元末には、「振り返ろう」と明記し、学習したことを硬筆で書き直す枠を設けるとともに、学んだことを自分の言葉で書く欄を設けている。 |

| | | |
|----------|------|---|
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数 65 ページ、資料編 33 ページ+折込 12 ページで構成している。毛筆教材数は 12、毛筆教材を扱うページは 25 ページ、資料編教材 14、硬筆記入欄 22 ページ。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 学習の参考となる動画資料（外部サイト）を参照できる二次元コードが 3 つあり、二次元コードの上部に「解説 動画」「参考資料」等、確認できる資料の概要が記載されている。 |
| 17 教出 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や執筆法、用具の使い方を示す写真・イラスト等を、姿勢と用具の使い方で見開き 2 ページで一覧できるように示している。大筆、小筆、鉛筆、ボールペンの持ち方を示している。 紙面構成は、見開き 2 ページで、左ページにポイントを示し、右ページ全面に主教材の文字を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> さまざまな書く場面について、学習活動や日常生活の中で、場面に応じた書き方をするにはどのような点に注意するとよいか、話し合えるようにしており、「振り返ろう」では、評価の観点について「○=できた」「△=もう少し」で自己評価を記入する欄を設けている。また、どのような点に注意するとよいか、話し合うための観点を示している。教科書右下にある二次元コードから、話し合いの観点を整理するワークシートにアクセスできる。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「学習の進め方」では、基本となる学習の流れを示し、それぞれの学習場面における学び方を写真等で示している。 学習の目標を確かめた後、硬筆や毛筆で試し書きをすることで「考えよう」において自分の課題が見付けやすい構成となっている。 「生かそう」では、まとめとして書いた文字を試し書きと比べる活動を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数 100 ページ+折込 20 ページ、資料編 30 ページで構成している。毛筆教材数は 27、資料編等教材 14、毛筆教材を扱うページは 45 ページ、資料編等 3 ページ、硬筆記入欄 25 ページ。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 筆や硯などの学習用具を製作している会社や組合など、学習に関連する団体の Web ページの画像を閲覧できる二次元コードが 2 つ、国立文化機構所蔵品統合検索システムにアクセスできる二次元コードが 1 つあり、毛筆の主教材を毛筆・硬筆の楷書・硬筆の行書で書字する動画が閲覧でき、それぞれを比較しながら学習できるようになっている。 |
| 38 光村 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や執筆法、用具の使い方を示す写真・イラスト等を、姿勢・筆記用具の持ち方で見開き 2 ページ、用具の準備・片づけを見開き 2 ページの合計 4 ページで示している。大筆、小筆、鉛筆の持ち方を示している。右手で書く人と左手で書く人用の動画の二次元コードを掲載している。タブレットを使う姿勢を写真で示しているなど、丁寧に示されている。 紙面構成は、1 題材 4 ページ、見開き 2 ページで、学習の進め方を示し、次の見開き 2 ページで、半紙原寸大の主教材の文字を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 楷書と行書の使い分けについて、「①考えよう」では、場面に応じて、楷書と行書のどちらで書くか考え、「②確かめよう」で①で考えたことを話し合うようにしており、「③生かそう」では、場面を選んで、楷書か行書で名前を書くようにしている。「学びのカギ」では、楷書と行書を使い分ける際の観点を示している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「中学書写スタートブック」の「学習の進め方」下段に「タブレットを活用しよう」を設け、学習の過程におけるタブレットの活用例を示している。 「考えよう」では、課題について考えたり話し合ったりする活動を示している。 「生かそう」では、硬筆で書いたり、学校生活でも書写の学習を生かしたりできることを示している。 |

| | |
|------|---|
| 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 71 ページ、資料編ページ 46 ページ+折込 16 ページで構成している。毛筆教材数 12、資料編等教材 21、毛筆教材を扱うページは 36 ページ、資料編等ページは 13 ページ、硬筆記入欄のページは 16 ページ、書写ブック 21 ページ、資料編等 5 ページ。 |
| 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「文字マップ」や「SDGs について」等、教科用図書に収録されていない関連資料を閲覧できる二次元コードが 6 つあり、「他の文字にもチャレンジ」と書かれた二次元コードからは、補助教材（毛筆の手本）が閲覧できる。 |

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| 教科名 | 社会（地理） |
|--------|--------|
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 46 帝国 |

（社会 [地理的分野]） 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | ・我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫として、「領土をめぐる問題をかかえる島々 北方領土・竹島と尖閣諸島」というタイトルで、「地理的に見る島々の特色」「水産資源にめぐまれた竹島」「貴重な自然が残る北方領土」「資源が期待される尖閣諸島」という項目を設定している。 |
| | 観点 2 | ・巻頭ページに、「地理を学ぶ 5 つのミカタ」を設定し、「見方・考え方」として、「位置や分布」「人と自然のかかわり」「場所」「結び付き」「地域」を示している。 ・「世界の諸地域」の節ごとのまとめに、「見方・考え方」と資料を結びつけた「資料を活用する力をきたえよう」というページを設けている。 |
| | 観点 3 | ・調査の手順として「課題をとらえ、問いを立てよう」「地域を調査し、課題をとらえよう」「課題の要因や影響を考察しよう」「解決策を議論し、構想しよう」「地域のこれからの提案し、発信しよう」の構成になっており、手順を把握しやすい。 |
| | 観点 4 | ・総ページ数 294。「世界と日本の地域構成」26 (8.8%)、「世界の様々な地域」110 (37.4%)、「日本の様々な地域」136 (46.2%)、巻末資料の内容 11 (3.7%)、その他 11 (3.7%) |
| | 観点 5 | ・「世界の諸地域」における資料の総掲載数 283 点 (写真 149 点、絵画 13 点、地図 41 点、図表・グラフ 42 点、二次元コード 38 点) あり、充実している。 |
| 17 教出 | 観点 1 | ・我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫として、「日本の領土をめぐる日本国境をめぐるさまざまな動き」というタイトルで、「北方領土をめぐる問題」「竹島と尖閣諸島」という項目を設定している。 |
| | 観点 2 | ・巻頭ページに、「地理の学習を始めるにあたって…」を設定し、「見方・考え方」として、「位置や広がり (分布)」「自然環境との関わり」「場所」「結びつき」「地域」を示している。 |
| | 観点 3 | ・調査の手順として「地域の課題をとらえる」「地域の課題を調べよう」「地域の特色をまとめよう」「調査結果を整理しよう」「調査結果を地域に伝えよう」の構成になっている。 |

| | | |
|-----------|------|---|
| | 観点 4 | ・総ページ数 310。「世界と日本の地域構成」 20 (6.5%)、「世界の様々な地域」 103 (33.2%)、「日本の様々な地域」 157 (50.6%)、巻末資料の内容 13 (4.1%)、その他 17 (5.5%) |
| | 観点 5 | ・「世界の諸地域」における資料の総掲載数 210 点 (写真 113 点、絵画 8 点、地図 45 点、図表・グラフ 37 点、二次元コード 7 点) |
| 46 帝国 | 観点 1 | ・我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫として、「日本の領域とその特徴」というタイトルで、「国際法に基づく日本の領土」「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」という項目を設定している。 |
| | 観点 2 | ・巻頭ページに、「地理的な見方・考え方」を設定し、「見方・考え方」として、「位置や分布」「場所」「人間と自然の関わり」「他地域との結びつき」「地域の特徴」を示している。 ・地理的な見方・考え方を働かせて、自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりする特設ページ「アクティブ地理 A L」を設けている。 |
| | 観点 3 | ・調査の手順として「追究するテーマを決めよう」「地域の実態を調査しよう」「地域の魅力と課題を分析・考察しよう」「地域の課題の解決策を構想しよう」「解決策と魅力を高める提案をしよう」の構成になっている。 |
| | 観点 4 | ・総ページ数 310。「世界と日本の地域構成」 24 (7.7%)、「世界の様々な地域」 102 (32.9%)、「日本の様々な地域」 166 (53.5%)、巻末資料の内容 7 (2.3%)、その他 11 (3.5%) |
| | 観点 5 | ・「世界の諸地域」における資料の総掲載数 274 点 (写真 149 点、絵画 21 点、地図 34 点、図表・グラフ 50 点、二次元コード 20 点) あり、イメージしやすさがある。 |
| 116 日文 | 観点 1 | ・我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫として、「日本の領域をめぐる問題をとらえよう」というタイトルで、「北方領土」「竹島」「領土問題の解決に向けて」「尖閣諸島をとりまく情勢」という項目を設定している。 |
| | 観点 2 | ・巻頭ページに、「地理的な見方・考え方って？」を設定し、「見方・考え方」として、「位置や分布」「場所」「人と自然のかかわり」「地域どうしのつながり」「地域」を示している。 |
| | 観点 3 | ・調査の手順として「考察・構想するテーマを決めよう」「地域の課題の解決策を考察しよう」「情報を集めて構想しよう」「構想した内容を整理してまとめよう」「構想した内容を発信しよう」の構成になっている。 |
| | 観点 4 | ・総ページ数 318。「世界と日本の地域構成」 24 (7.5%)、「世界の様々な地域」 104 (32.7%)、「日本の様々な地域」 163 (51.2%)、巻末資料の内容 16 (5.2%) その他 11 (0.3%) |
| | 観点 5 | ・「世界の諸地域」における資料の総掲載数 295 点 (写真 134 点、絵画 18 点、地図 28 点、図表・グラフ 67 点、二次元コード 48 点) |

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|--------|
| 教科名 | 社会（歴史） |
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 116 日文 |

(社会 [歴史的分野]) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|---|
| 2 東書 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は6点あり、古代（1）、中世（1）、近世（3）、近代（1）の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「武士が生まれ、その支配が広がった中世の日本で、社会はどのように変化したのでしょうか。」という探究活動について、自分の考えを多面的・多角的に考察できる工夫がある。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、見開き 2 ページにわたり、二次元コード、小学校の社会で習った言葉、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表、キャラクターの問い等や、資料の読み取り及び話し合い活動を示しており、学習に入りやすくしている。 |
| | 観点 4 | ・総ページ 287、歴史との対話 14(4.9%)、古代 42(14.6%)、中世 34(11.8%)、近世 46(16.0%)、近代 100(34.8%)、現代 32(11.1%)、その他 19(6.6%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数 423 点（写真・絵図(209) 地図(32) 図表・グラフ(26) 文書資料(47) 年表(3) 人物(57) 二次元コード(49)）あり、充実している。 |
| 17 教出 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は7点あり、古代（1）、中世（1）、近世（2）、近代（2）、現代（1）の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「武士と民衆の成長によって、社会はどのように変化したのだろうか。」という章の問いについて、自分の考えを文章にまとめる記載となっている。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、3 ページを使い、二次元コード、絵図、写真、地図、キャラクターの問い等や、人物のイラストを用いた年表及び資料の読み取りを示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ 298、歴史との対話 17(5.7%)、古代 40(13.4%)、中世 36(12.0%)、近世 48(16.1%)、近代 108(36.2%)、現代 36(12.1%)、その他 13(4.4%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数 335 点（写真・絵図(189) 地図(28) 図表・グラフ(32) 文書資料(22) 年表(3) 人物(55) 二元コード(6)） |

| | | |
|------------|------|---|
| 46 帝国 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は15点あり、古代(2)、中世(2)、近世(4)、近代(7)の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という章の問いに対して、自分の考えを文章にまとめる記載となっている。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、1ページを使い、二次元コード、絵図、小学校で学んだ人物と主な出来事のイラストを用いた年表、キャラクターの問いを示し、話し合い活動や予想を書く活動を示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ314、歴史との対話12(3.8%)、古代48(15.3%)、中世42(13.4%)、近世56(17.8%)、近代114(36.3%)、現代32(10.2%)、その他10(3.2%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数364点(写真・絵図(202) 地図(37) 図表・グラフ(38) 文書資料(2) 年表(3) 人物(62) 二次元コード(20)) |
| 81 山川 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は12点あり、古代(4)、中世(4)、近世(2)、近代(2)の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場で問いについて、自分の考えを文章にまとめる記載となっている。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、見開き2ページを使い、これから学習する内容を日本史と世界史に分けて年表で示すとともに、主な歴史的現象の写真や絵図を示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ288、歴史との対話9(3.1%)、古代48(16.7%)、中世40(13.9%)、近世52(18.1%)、近代100(34.7%)、現代30(10.4%)、その他9(3.1%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数334点(写真・絵図(189) 地図(31) 図表・グラフ(37) 文書資料(19) 年表(0) 人物(47) 二次元コード(11)) |
| 116 日本文 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラム数は9点あり、中世(3)、近世(3)、近代(2)、現代(1)の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「絶えず戦乱がくり返される時代となったのは、なぜなのでしょう。」という編の問いについて、自分の考えを文章にまとめる記載となっている。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、見開き4ページにわたり、絵図、二次元コード、人物のイラストを用いた年表、写真、地図、キャラクターの問い等や、資料の読み取り、話し合い活動及び予想を書く活動を示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ307、歴史との対話12(3.9%)、古代46(15.0%)、中世40(13.0%)、近世50(16.3%)、近代104(33.9%)、現代34(11.1%)、その他21(6.8%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数439点(写真・絵図(185) 地図(31) 図表・グラフ(37) 文書資料(34) 年表(31) 人物(61) 二次元コード(60))あり、充実している。 |

| | | |
|------------|------|--|
| 225 自由社 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラムの数は4点あり、古代(1)、近世(1)、近代(1)、現代(1)の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「中世とはどんな時代だったのだろうか」を考え、作文を造る活動を設定している。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、1ページを使い、絵図、キャラクターの問い等とともに、小学校で学んだ近世の人物のイラストを時代順に示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ303、歴史との対話12(4.0%)、古代50(16.5%)、中世36(11.9%)、近世44(14.5%)、近代106(35.0%)、現代33(10.9%)、その他22(7.3%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数274点(写真・絵図(139) 地図(22) 図表・グラフ(14) 文書資料(60) 年表(5) 人物(34) 二次元コード(0)) |
| 227 育鵬社 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラムの数は15点あり、古代(1)、近代(2)、現代(1)の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「武士が時代の主役になった中世は、どのような時代だったといえるのか」を考え、それぞれの考えをみんなで話し合う活動を設定している。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、見開き4ページにわたり、年表、絵図、人物や歴史的事象のイラストを時代順に示し、キャラクターの問い等や資料の読み取りを示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ292、歴史との対話14(4.8%)、古代40(13.7%)、中世32(11.0%)、近世50(17.1%)、近代98(33.6%)、現代36(12.3%)、その他22(7.5%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数317点(写真・絵図(146) 地図(33) 図表・グラフ(36) 文書資料(20) 年表(3) 人物(77) 二次元コード(2)) |
| 229 学び舎 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラムの数は15点あり、古代(2)、中世(4)、近世(4)、近代(2)、現代(3)の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「第2部・中世は、どのような人びとが力を持った時代だったのでしょうか。前の時代と比べながら、自分の考えを文章にまとめましょう。」という問いについて、自分の考えを文章にまとめる記載となっている。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、見開き2ページを使い、年表、写真、絵図を示し、それぞれの歴史的事象が関連する位置を地図に示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ299、歴史との対話8(2.7%)、古代44(14.7%)、中世32(11.0%)、近世48(16.1%)、近代110(36.8%)、現代36(12.0%)、その他21(7.0%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数286点(写真・絵図(194) 地図(32) 図表・グラフ(20) 文書資料(1) 年表(0) 人物(39) 二次元コード(0)) |

| | | |
|-----------|------|---|
| 236 令書 | 観点 1 | ・国際社会で主体的に生きる基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫として、日本に影響を与えた文化交流に関するコラムの数は5点あり、古代（2）、近代（1）、現代（2）の内訳となっている。 |
| | 観点 2 | ・「政治」「文化」「外交」「産業」の4つの視点から、学習を整理する。また、日明貿易がどのように展開したかをまとめる記載となっている。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、見開き2ページを使い、絵図及び歴史的事象を示した年表を示し、政治・外交・文化・産業の4つの視点で章の学習課題を示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ 463、歴史との対話 13 (2.8%)、古代 102 (22.0%)、中世 64 (13.8%)、近世 86 (18.6%)、近代 142 (30.7%)、現代 34 (10.6%)、その他 7 (1.5%) |
| | 観点 5 | ・「近代の日本と世界」における資料の総掲載数 120 点 (写真・絵図(49)地図(4)図表・グラフ(8)文書資料(29)年表(3)人物(27) 二次元コード(0)) |

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|--------|
| 教科名 | 社会（公民） |
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 116 日文 |

（社会 [公民的分野]） 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、部活動ごとの体育館使用の割り振りという身近なテーマを取り上げている。 ・「T市の公園の使用ルールを考えよう」という活用課題を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「深めよう」を2ページ設け、「みんなチャレンジ」を通して、単元の内容をまとめながら多面的・多角的に考察できるようにしている。また、「探究課題」に対するまとめを行うようにしている。 ・「節の問いを解決しよう」で「シンキングツール」を使って考察するページが設けてあり、多面的・多角的に考察させるための工夫がある。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・最初の扉の1ページに単元の内容に関する3枚の写真を掲載し、キャラクターによる吹き出しで「どのように～のだろう」といった投げかけをしている。また、小学校の学習と関連させる工夫がある。 ・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計5例示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数246、「私たちと現代社会」31(12%)、「私たちと経済」52(21%)、「私たちと政治」92(37%)、「私たちと国際社会の諸課題」43(17%)、その他28(11%)となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「私たちと政治」における資料の総掲載数303（絵図55、写真123、地図3、表・グラフ45、新聞12、年表2、文書資料12、二次元コード47）あり、充実している。 |
| 17 教出 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、合唱コンクールの練習を取り上げている。 ・「ごみ収集所の新たな設置」という活用課題を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「学習のまとめを表現しよう」を3ページ設け、1ページ目は用語の理解を促す問い、2ページ目は、学習活動として2つのSTEPを行い、単元の導入で示した学習課題に対するまとめを行うようにしている。 ・「各節で学習したことを振り返ろう」で「シンキングツール」を使って考察するページを設けている。 |

| | | |
|-----------|-----|---|
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> 最初の扉の1ページに単元の内容に関する3～4枚の写真を掲載し、写真の説明と関係するページを示している。 「まなびリンク」として二次元コードを掲載し関係する情報につないでいる。 持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計7例示している。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数270、「私たちと現代社会」26(10%)、「私たちと経済」64(24%)、「私たちと政治」90(33%)、「私たちと国際社会の諸課題」45(16%)、その他47(17%)となっている。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> 「私たちと政治」における資料の総掲載数236(絵図47、写真78、地図4、表・グラフ55、新聞3、年表3、文書資料16、二次元コード10) |
| 46 帝国 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、防災備蓄倉庫の新設を取り上げている。 「マンションの騒音問題を解決しよう」という活用課題を示している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> 単元末に「学習を振り返ろう」を4ページ設け、1ページ目は、学んだ知識、思考・判断・表現を確かめる問い、2ページ目は、思考・判断・表現を働かせて考える問いを掲載し、4ページ目は主体的な学びを促す問いを掲載している。 「節の振り返り」で「シンキングツール」を使って考察するページを設けている。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> 単元の導入において、最初の見開き2ページに「学習の前に」としてイラストを掲載し、それをもとにした問いが掲載されている。また、最初の扉の1ページに小学校の学習と関連させる工夫がある。 持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計6例示している。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数262、「私たちと現代社会」28(10%)、「私たちと経済」66(25%)、「私たちと政治」86(33%)「私たちと国際社会の諸課題」43(16%)、その他39(15%)となっている。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> 「私たちと政治」における資料の総掲載数200(絵図47、写真79、地図4、表・グラフ47、新聞3、年表2、文書資料5、二次元コード14) |
| 116 日文 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、合唱コンクールの練習スケジュールを取り上げている。 「公園づくりについて話し合おう」という活用課題を示している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> 単元末に「章のまとめをしよう」を2ページ設け、「語句の意味を確認しよう」の欄、「ニュースを『見方・考え方』から見てみよう」の欄を設けている。 「章の問いに答えよう」で「シンキングツール」を使って考察するページを設けている。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> 最初の見開き2ページに「学習の始めに」として漫画及び漫画についての説明文を掲載し、内容についての問いを2つ掲載している。また、小学校の学習と関連させる工夫がある。 持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計5例示している。 |

| | | |
|------------|------|--|
| | 観点 4 | ・総ページ数 274、「私たちと現代社会」32(12%)、「私たちと経済」66(25%)、「私たちと政治」86(33%)「私たちと国際社会の諸課題」43(16%)、その他 49(18%)となっている。 |
| | 観点 5 | ・「私たちと政治」における資料の総掲載数 305 (絵図 60、写真 110、地図 3、表・グラフ 61、新聞 9、年表 2、文書資料 16、二次元コード 44) あり、充実している。 |
| 225 自由社 | 観点 1 | ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、部活動ごとの体育館使用の割り振りを取り上げている。 ・「魅力ある『まちづくり』を考えよう」という活用課題を示している。 |
| | 観点 2 | ・単元末に「学習のまとめと発展」を1ページ設け、「学習のまとめ」欄で用語を掲載している。 ・「学習の発展」欄では、学習内容の関連する複数の課題を提示し、1つを選択して400字でまとめる課題を設定している。 |
| | 観点 3 | ・単元の導入において、最初の扉1ページに人のいる風景のイラストを掲載し、単元名の下に単元の内容についての問いを示している。 ・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計17例示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ数 270、「私たちと現代社会」42(16%)、「私たちと経済」44(16%)、「私たちと政治」78(29%)、「私たちと国際社会の諸課題」60(22%)、その他 46(17%)となっている。 |
| | 観点 5 | ・「私たちと政治」における資料の総掲載数 120 (絵図 27、写真 71、地図 0、表・グラフ 14、新聞 4、年表 0、文書資料 4、二次元コード 0) |
| 227 育鵬社 | 観点 1 | ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために、昼休みのグラウンド使用について取り上げている。 ・「マンションの住民のペットの飼育について」という活用課題を示している。 |
| | 観点 2 | ・単元末に「〇〇のこれから」を2ページ設け、単元の導入において「〇〇の入り口」で示された課題を受け、資料を活用し、学んだことを生かして取り組む課題が設定されている。 ・「学習のまとめ」を1ページ設け、重要語句の確認や、説明させたり、自分の考えをまとめさせたりする問いを掲載している。 |
| | 観点 3 | ・最初の扉1ページに単元の内容に関する3枚の写真及びその説明を掲載し、それぞれにキャラクターが問いかけをしている。また、小学校の学習と関連させる工夫がある。 ・持続可能な社会の形成に関わる課題例を分野ごとに計4例示している。 |
| | 観点 4 | ・総ページ数 262、「私たちと現代社会」28(11%)、「私たちと経済」54(21%)、「私たちと政治」80(31%)、「私たちと国際社会の諸課題」36(14%)、その他 64(24%)となっている。 |
| | 観点 5 | ・「私たちと政治」における資料の総掲載数 244 (絵図 44、写真 116、地図 3、表・グラフ 33、新聞 13、年表 1、文書資料 32、二次元コード 2) |

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| 教科名 | 社会（地図） |
|--------|--------|
| 第 1 推薦 | 46 帝国 |
| 第 2 推薦 | 2 東書 |

(社会（地図）) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|---|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭ページに「この地図帳の地図記号」を記載している。 ・ 日本全体に関しては、地形、気候、自然災害、文化、人口、農林水産業、資源・エネルギー、工業・貿易、交通・通信に関する資料や統計を記載している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「この地図帳でいっしょに“世界旅行”をするミツバチーズ」というキャラクターを設定し、資料活用コーナーを設け、地図の活用や学習を深めるためのヒントとなる問いとして 157 問記載している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 総ページ数 176。「世界と日本の資料図」32 (18.1%)、「世界の諸地域」50 (28.4%)、「日本の諸地域」64 (36.3%)、「統計」10 (0.5%)、「さくいん」9 (0.5%)、「巻頭・巻末」16 (0.9%) ・ 「世界全体」「日本全体」「世界や日本の地域ごと」「統計」「さくいん」に分類し、インデックスを 5 つに分類し色分けしている。また、「世界」を「世界全体」「州」、「日本」を「日本全体」「地方」で分類し、色分けしている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードを、83 か所記載している。 |
| 46 帝国 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭ページに「この地図帳の凡例」を記載している。 ・ 日本全体に関しては、地形、気候、自然災害・防災、人口、鉱産資源、工業、農業・水産業、交通・観光、歴史・生活・文化に関する資料や統計を記載している。防災については、4 ページに渡って掲載している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地図で発見！」のコーナーを設け、社会科の学習を、地図をもとに確認したり深めたりする問いとして 156 問記載している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。 |

| | | |
|--|-----|--|
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 198。「世界と日本の資料図」28 (14.1%)、「世界の諸地域」58 (29.2%)、「日本の諸地域」74 (37.3%)、「統計」9 (0.4%)、「さくいん」11 (0.5%)、「巻頭・巻末」18 (0.9%) と多様な掲載があり、詳細に示されている。 ・「資料」「世界」「日本」「統計」「さくいん」でインデックスを5つに分類し色分けしている。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードを、56 か所記載している。 |

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|--------|
| 教科名 | 数学 |
| 第 1 推薦 | 11 学図 |
| 第 2 推薦 | 61 啓林館 |

(数学) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | 第 2 学年「文字を用いた式の計算」 ・各学習のはじめに、「Q 考えてみよう」を設定して、学習のきっかけと見通しをたてるための考え方を示している。 ・練習問題数・問【83 問】・節末【23 問】・章末【26 問】・巻末【77 問】 この他、二次元コードを読み取ると、そのページの内容に関する練習問題が表示される。 |
| | 観点 2 | 第 2 学年「データの活用」 ・説明したり、話し合ったりする問題等の数 13 (内説明を求める数 2) 活動のきっかけとなる事柄 「スーパーマーケットでは、なるべく多くの商品を仕入れて、残すことなく売るために販売数の傾向を分析することがあります。」 |
| | 観点 3 | ・巻末及び別冊で取り扱われている問題数 (各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題) 1 年… 9、2 年… 7、3 年… 6 合計… 22 |
| | 観点 4 | (内容・配列) ・2 次方程式の解法は「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。 (分量) ・1 年ページ数 321 P、2 年ページ数 257 P、3 年ページ数 289 P (発展的な問題の数及び具体例) ・1 年… 3 問 (同類項 など) ・2 年… 5 問 (文字が 3 つに増えたら… など) ・3 年… 4 問 (分母が多項式の有理化 など) |
| | 観点 5 | 3 学年全体 ○デジタルコンテンツ 二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。 ・動画 ・マイ教科書、マップ ・ワークシート ・シミュレーション ・対話シート ・ちょっと確認 ・フラッシュカード ・ヒントと解答 ・Web サイト |
| 4 大日本 | 観点 1 | 第 2 学年「文字を用いた式の計算」 ・章のはじめに、単元で学習する内容や下学年の学習内容との関連を示している。 ・各学習のはじめに、「考えよう？」を設定して学習のきっかけとめあてを示している。 ◇練習問題数 ・問【117 問】・節末【28 問】・章末【18 問】・巻末【32 問】 |

| | | |
|----------|------|--|
| | 観点 2 | 第 2 学年「データの活用」 ・説明したり、話し合ったりする問題等の数 8（内説明を求める数 1） 活動のきっかけとなる事柄 「日本の（バレーボール）選手の身長は、ほかの国の選手に比べて、どのような傾向があるだろうか。」 |
| | 観点 3 | ・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…10、2年…10、3年…9 合計…29 |
| | 観点 4 | (内容・配列) ・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっており、分かりやすい。 (分量) ・1年ページ数 320 P、2年ページ数 249 P、3年ページ数 299 P (発展的な問題の数及び具体例) ・1年…4問（同類項 など） ・2年…4問（3つの文字を含む連立方程式 など） ・3年…14問（多項式を累乗する展開 など） |
| | 観点 5 | 3 学年全体 ○デジタルコンテンツ 二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。 ・シミュレーション ・外部のウェブサイトへのリンク ・PDF データ ・資料 ・動画 ・インタビュー記事 |
| 11 学図 | 観点 1 | 第 2 学年「文字を用いた式の計算」 ・章の前の「ふりかえり」で下学年の学習内容を示している。 ・各学習のはじめに、生徒の発言によって、問題解決のための見通しをもたせている。 ・練習問題数・問【82問】・節末【57問】・章末【25問】・巻末【25問】 この他、「チャレンジ」として示された二次元コードを読み取ると、関連する練習問題が表示される。 |
| | 観点 2 | 第 2 学年「データの活用」 ・説明したり、話し合ったりする問題等の数 12（内説明を求める数 2） となっており、充実している。 活動のきっかけとなる事柄 「1月から3月の間にメルボルンに行く場合、どんな服を準備すればよいか調べるために、5年間の日ごとの最高気温のデータから月ごとの平均値を求めグラフに表すと、次のようになりました。このグラフから、どんなことがわかりますか。」 |
| | 観点 3 | ・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…7、2年…6、3年…9 合計…22 |
| | 観点 4 | (内容・配列) ・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっており、分かりやすい。 (分量) ・1年ページ数 319 P、2年ページ数 262 P、3年ページ数 320 P (発展的な問題の数及び具体例) ・1年…8問 (a^0 、 a^1 はあるのかな? など) ・2年…7問（3つの文字を含む連立方程式を解こう など） ・3年…8問（乗法公式を使った分母の有理化 など） となっており、学年間のバランスが良い。 |

| | | |
|-----------|------|---|
| | 観点 5 | 3 学年全体 ○デジタルコンテンツ 二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。 ・アニメーション ・活動 ・データ ・映像 ・ふりかえり ・チャレンジ ・パトロール隊 ・別の解き方 ・解答 ・リンク |
| 17 教出 | 観点 1 | 第 2 学年「文字を用いた式の計算」 ・章のはじめに、章の学習内容に関連する既習の問題を示している。 ・各学習のはじめに、「Q」などの設定で学習のきっかけとするとともに、生徒の発言により考え方の手がかりを示している。 ・練習問題数・問【78 問】・節末【26 問】・章末【24 問】・巻末【85 問】 |
| | 観点 2 | 第 2 学年「データの活用」 ・説明したり、話し合ったりする問題等の数 5（内説明を求める数 2） 活動のきっかけとなる事柄 「年々、冬日の日数が減少することは、京都以外の都市でも起こっているのでしょうか。京都以外の都市についても箱ひげ図を利用し、冬日の日数の経年変化を調べてみましょう。また、わかったことを発表してみましょう。」 |
| | 観点 3 | ・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1 年…6、2 年…5、3 年…10 合計…21 |
| | 観点 4 | （内容・配列） ・2 次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっており、分かりやすい。 （分量） ・1 年ページ数 343 P、2 年ページ数 275 P、3 年ページ数 311 P（発展的な問題の数及び具体例） ・1 年…5 問（同類項 など） ・2 年…4 問（文字を使った式の学習のひろがり など） ・3 年…10 問（乗法の公式を使った分母の有理化 など） |
| | 観点 5 | 3 学年全体 ○デジタルコンテンツ 二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。 ・操作 ・動画 ・統計ツール ・資料 |
| 61 啓林館 | 観点 1 | 第 2 学年「文字を用いた式の計算」 ・誤答例を示し、正しくない理由を説明したり、どのように直せば正しくなるかを考えたりする問題を取り扱っている。 ・「ふりかえり」として、下学年で学習した類似の問題の解き方を示している。 ・練習問題数・問【79 問】・章末【50 問】・巻末【15 問】 二次元コードを読み取ると、補充問題が表示される。 |
| | 観点 2 | 第 2 学年「データの活用」 ・説明したり、話し合ったりする問題等の数 5（内説明を求める数 2） 活動のきっかけとなる事柄 「けいたさんとかりんさんは、日ごろから関心をもっているごみのリサイクルについて、全国でどの程度取り組まれているか調べてみることにしました。」 |
| | 観点 3 | ・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1 年…11、2 年…8、3 年…14 合計…33 |

| | | |
|-------------------|------------|--|
| | <p>観点4</p> | <p>(内容・配列) ・2次方程式の解法は「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。 (分量) ・1年ページ数299P、2年ページ数235P、3年ページ数279P (発展的な問題の数及び具体例) ・1年…1問(最大公約数と最小公倍数 など) ・2年…1問(どちらのくじをひこうかな? など) ・3年…7問($\sqrt{2}$が無理数であることの証明 など)</p> |
| | <p>観点5</p> | <p>3学年全体 ○デジタルコンテンツ 二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。 ・動かす ・動画 ・スライドショー ・リンク ・プログラミング ・問題解説 ・補充問題 ・例、例題の解説 ・ふりかえりCBT ・前学年までのまとめ</p> |
| <p>104 数研</p> | <p>観点1</p> | <p>第2学年「文字を用いた式の計算」 ・章の前に、章の学習に関連する下学年の学習内容や問題を示している。 ・各学習内容の導入で、「Q」マークを設定して学習のきっかけとするとともに、生徒の発言により、問題解決のための手がかりを示している。 ・練習問題数・問【91問】・節末【16問】・章末【15問】・巻末【38問】 この他、「Link 補充」として示された二次元コードを読み取ると、補充問題が表示される。</p> |
| | <p>観点2</p> | <p>第2学年「データの活用」 ・説明したり、話し合ったりする問題等の数6(内説明を求める数5) 活動のきっかけとなる事柄 「ある中学校の体育委員会で、生徒の体力が以前と比べて変化しているか調べるため、体力テストのデータの傾向について調査することになった。」</p> |
| | <p>観点3</p> | <p>・巻末及び別冊で取り扱われている問題数(各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題) 1年…6、2年…4、3年…4 合計…14</p> |
| | <p>観点4</p> | <p>(内容・配列) ・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっており、分かりやすい。 (分量) ・1年ページ数316P、2年ページ数267P、3年ページ数324P (発展的な問題の数及び具体例) ・1年…2問(三角形の外心、内心 など) ・2年…2問(あることがらが起こったときの確率 など) ・3年…7問($\sqrt{2}$が無理数であることの証明 など)</p> |
| | <p>観点5</p> | <p>3学年全体 ○デジタルコンテンツ 二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。 ・補充 ・イメージ ・資料 ・考察 ・探究</p> |

| | | |
|-----------|-----|--|
| 116 日文 | 観点1 | <p>第2学年「文字を用いた式の計算」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・章の前に、章の学習内容に関連する下学年の学習内容や問題を示している。 ・各学習内容の導入で、「Q」マークを設定して学習のきっかけとめあてを示している。 ・練習問題数・問【96問】・節末【25問】・章末【34問】・巻末【28問】 この他、「身につける」として示された二次元コードを読み取ると、補充問題が表示される。 |
| | 観点2 | <p>第2学年「データの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明したり、話し合ったりする問題等の数5（内説明を求める数3） 活動のきっかけとなる事柄 「1日の最低気温が0℃未満の日を冬日といいます。」 「真衣さんの班では、今度は冬日が減る傾向にあるのかどうかを調べることにしました。」 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…7、2年…7、3年…6 合計…20 |
| | 観点4 | <p>（内容・配列）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっており、分かりやすい。 <p>（分量）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年ページ数319P、2年ページ数263P、3年ページ数301P （発展的な問題の数及び具体例） ・1年…3問（三角形の内心と外心 など） ・2年…2問（3つの文字を含む連立方程式 など） ・3年…8問（分母が多項式であるときの有理化 など） |
| | 観点5 | <p>3学年全体</p> <p>○デジタルコンテンツ</p> <p>二次元コードから、次のデジタルコンテンツが利用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見る ・ためす ・身につける ・図形のまとめ ・調べる ・統計ツール |

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| 教科名 | 理科 |
|--------|--------|
| 第 1 推薦 | 61 啓林館 |
| 第 2 推薦 | 2 東書 |

(理科) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | ・各単元の導入部に「これまでに学んだこと」という枠組みを設けており、既習事項を確認することができる。3年間で補充的な問題は 38 ページ、観察、実験の総数が 83、となっている。実験観察の安全確保をマークと文章で表している。 |
| | 観点 2 | ・「構想」等により観察、実験を計画する視点を、「結果の見方」「分析解釈」等により分析し解釈する視点を示している。また、各学年の巻頭に、「議論のしかた」を設定し 4 点のポイントを示し、「発表のしかた」を設定し、5 点のポイントを示している。 |
| | 観点 3 | ・コラムは「まちなか科学」など 6 種類となっている。各学年の巻頭に「探究の流れを確認しよう」として探究の過程を掲載（第 1、2 学年 2 ページ、第 3 学年 1 ページ）掲載している。探究の過程のどの段階を学習しているかのキーワードが色付けで示されて配置している。各学年の巻末には掲載はない。また、「お仕事図鑑」「防災特集」などのコラムがあり、日常生活と関連を図りやすい。 |
| | 観点 4 | ・総ページ数は 898、第 2 学年のみ付録、補充的な観察・実験数は 97、発展的な学習の取り扱い数は 59、ものづくりの数は 12 となっている。 |
| | 観点 5 | ・本文中にルビを掲載し、見出しには掲載していない。初出の重要語句にもルビを掲載している。小口の上部から下部にかけて単元を色分けして示している。また、単元番号と章の内容を表記している。図は第 1 学年「身のまわりの物質」で 50 点、3 年間の総数では 772 点使用されている。 |
| 4 大日本 | 観点 1 | ・各単元の導入部に「これまでに学んだこと」という枠組みを設けており、既習事項を確認することができる。3年間で補充的な問題は 41 ページ、観察、実験の総数が 89、となっている。実験観察の安全確保を文章のみで表しており、マークの記載はない。 |

| | | |
|----------|------|---|
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「計画を立てよう」等により観察、実験を計画する視点を、「結果の整理」「結果から考えよう」等により分析し解釈する視点を示している。また、第1学年の巻末に「探究の進め方」を設定し、「話し合いのしかた」5点、「発表のしかた」3点、「調べたことをまとめ、発表しよう」において3点のポイントを示している。「話し合おう」として、話し合い活動を設定している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・コラムは「Science Press」など4種類となっている。各学年の巻頭には、「理科の学習の進め方」の一部として掲載(0.5ページ)している。第1学年の巻末には「探究の進め方」として、第2学年の巻末には「探究活動」として探究の過程を掲載(第1学年6ページ)している。探究の過程を示すキーワードを配置している。第2・3学年の巻末には掲載はない。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数は986で付録は全学年なし。補充的な観察・実験数は110、発展的な学習の取り扱い数は86、ものづくりの数は16となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・本文中にルビを掲載し、見出しには掲載していない。初出の重要語句にもルビを掲載している。小口の上部を単元で色分けしている。また、単元番号と章の内容を表記している。図は第1学年「身のまわりの物質」で41点、3年間の総数では699点使用されている。 |
| 11 学図 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入部に「ふり返ろう・つなげよう」という枠組みを設けており、既習事項を確認することができる。3年間で補充的な問題は12ページ、観察、実験の総数が89、となっている。実験観察の安全確保を文章のみで表しており、マークの記載はない。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「計画」等により観察、実験を計画する視点を、「結果」「考察」等により分析し解釈する視点を示している。また、各学年の巻頭に、「伝える」を位置付け、伝える際のポイントを示している。第1学年では、「理路整然 一智に働けば役に立つ」を設定し、「どうする、伝える・伝わるコツ」において、発表のしかたや発表スライドの作り方の例等を示している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・コラムは「理路整然」など3種類となっている。各学年の巻頭に「理路整然」の中で「どうする、探究のすすめ方」として探究の過程を掲載(2ページ)している。探究の過程の示すキーワードとマークを配置している。第1学年の巻末には、補充資料「理路整然」の中で探究の過程を掲載(2ページ)している。第2、3学年の巻末には掲載はない。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数は866で付録は全学年なし。補充的な観察・実験数は46、発展的な学習の取り扱い数は59、ものづくりの数は4となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・見出しを含め、ページの初出でルビを掲載している。見出しにルビのある重要語句は、本文中にルビの掲載はない。小口の中部から下部にかけて単元を色分けして示している。図は第1学年「身のまわりの物質」で56点、3年間の総数では754点使用されている。 |
| 17 教出 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入部に「学んでいくこと」という枠組みを設け、その中にこれまで学習した内容も示している。3年間で補充的な問題は38ページ、観察、実験の総数が66、となっている。実験観察の安全確保をマークと文章で表している。 |

| | | |
|-----------|------|---|
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 「計画を立てる」等により観察、実験を計画する視点を、「結果」「考察する」等により分析し解釈する視点を示している。また、各学年に「話し合おう」として話し合い活動を設定している。第2学年には、「発表しよう」として、発表する活動を設定している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> コラムは「ハローサイエンス」など2種類となっている。各学年の巻頭に「探究の進め方」として掲載(2.5ページ)している。探究の過程を示すキーワードとマークを配置している。各学年の巻末には、「自由研究」の中で具体例を掲載(1ページ)している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数は898で全学年付録なし。補充的な観察・実験数は108、発展的な学習の取り扱い数は69、ものづくりの数は10となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 見出しを含め、ページの初出でルビを掲載している。加えて本文中において初出の重要語句は赤字で示し、見出しでルビを掲載していても重ねて掲載している。口の上部から中部にかけて単元を色分けしている。また、単元番号と章の内容を表記している。図は第1学年「身のまわりの物質」で44点、3年間の総数では736点使用されている。 |
| 61 啓林館 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 章の導入部や関連する内容の近くに「つながる学び」という枠組みを設けている。3年間で補充的な問題は38ページ、観察、実験の総数が85、となっている。実験観察の安全確保をマークと文章で表している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 「計画」等で観察、実験を計画する視点を、「結果」「考察」等により分析し解釈する視点を示している。また、第1、2学年の巻末において、発表の際のポイントを示している。第1学年の巻末に「理科における話し合い」を設定し、話し合う際ポイントを8点、第2学年の巻末に「思考ツールの活用と理科における話し合い」を設定し、話し合う際ポイントを8点示している。第1、2学年の巻末に、探究の成果の表現方法として、「発表の進め方」と「ポスターやスライド作成のポイント」を示している。「発表してみよう」として、発表する活動を設定している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> コラムは「部活ラボ」など6種類となっている。各学年の巻頭に「探究とは」として探究の過程を掲載(1ページ)している。各学年の各単元の1か所に「探Q実験」を設定し、その実験に対応した「探Qシート」を巻末に添付している。各学年の巻末には、「探究の流れと探究の振り返り」を掲載している。また、「お仕事ラボ」「防災減災ラボ」などのコラムがあり、日常生活と関連を図りやすい。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 総ページ数は932、付録は全学年あり。補充的な観察・実験数は124掲載されており、科学的な体験につなげやすい。発展的な学習の取り扱い数は57、ものづくりの数は11となっている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 見出しを含め、ページの初出でルビを掲載している。本文中で初出の重要語句にもルビを掲載している。小口には、上部から中部にかけて、単元を色分けして示している。また、領域と章の内容を表記している。図は、第1学年「身のまわりの物質」で66点、3年間の総数では841点使用されている。 |

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|-------|
| 教科名 | 音楽 |
| 第 1 推薦 | 27 教芸 |
| 第 2 推薦 | 17 教出 |

(音楽 [一般]) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|---|
| 17 教出 | 観点 1 | ・第 1 学年及び第 2・3 学年上に「Sing! Sing!」として「歌うための準備」「言葉の発音」「変声と混声合唱」についての資料を掲載している。 |
| | 観点 2 | ・活動のポイントや学習活動を示す文の中に音楽を形づくっている要素の視点を示している。 |
| | 観点 3 | ・音楽文化に関する学習についての記載では、中国、アメリカ、朝鮮半島、インドネシアの特徴的な芸能や音楽について写真を掲載し、説明している。また、2つの話し合う活動を設定している。 |
| | 観点 4 | ・全学年「歌唱」「鑑賞」「創作」の各領域・分野を掲載している。 ・「Sing! Sing!」及び、「Let's Try」については、関連する教材に付帯して配列している。 |
| | 観点 5 | ・第 2・3 学年下「花」では、隅田川の風景・青柳・桜の花の写真を掲載するとともに、明治時代の隅田川の様子の写真、小林清親による風景版画を掲載している。 ・二次元コードを掲載し、範唱に合わせた風景の映像と歌詞の動画を掲載しているページにアクセスできる。 |
| 27 教芸 | 観点 1 | ・第 1 学年・第 2・3 学年上及び下に「My Voice!」として「自分の歌声を見つけよう」「自分の思いを歌声にのせよう」「鼻濁音」「豊かな歌声で、気持ちを込めて歌おう」について資料を掲載している。 |
| | 観点 2 | ・学習目標の下に音楽を形づくっている要素を例示するとともに、活動文や考えたいポイント、キャラクターの吹き出しの中に視点として示されており、具体的に音楽的な見方・考え方を働かせやすい。 |
| | 観点 3 | ・音楽文化に関する学習についての記載では、背景に世界地図を掲載し、その上に各地の楽器の写真を楽器群別のマークを付けて掲載している。また、考えたいポイントが書かれている。 |
| | 観点 4 | ・全学年「歌唱」「鑑賞」「創作」の各領域・分野を掲載している。 ・全学年「鑑賞」に関連する「歌唱」の教材を後に配列している。 ・第 1 学年の「創作」は関連する教材の後ろに配列している。 |

| | | |
|--|-----|---|
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none">・第2・3学年下「花」では、春の隅田川、柳、おぼろ月、櫂、露にぬれた桜、明治時代の花見の様子の写真、桜のイラストを掲載している。・二次元コードを掲載し、範唱に合わせた風景の映像と歌詞の動画を掲載しているページにアクセスできる。また、「組歌「四季」」についての説明と、それぞれの旋律の一部の音源を掲載しているページにもアクセスできる。さらに、パート別とカラピアノの音源を掲載しているページにアクセスできる。 |
|--|-----|---|

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|-------|
| 教科名 | 音楽 |
| 第 1 推薦 | 27 教芸 |
| 第 2 推薦 | 17 教出 |

(音楽 [器楽]) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|---|
| 17 教出 | 観点 1 | ・ギターにおける学習目標達成のための支援の具体例として姿勢とかまえ方について、正面からと側面からの写真を掲載し、説明している。 |
| | 観点 2 | ・創作教材「音のスケッチ」を 4 カ所に掲載している。基本形の楽譜を練習後、オプションパートを加えて演奏したり、即興演奏をしたり、構成を工夫して演奏したりするなどの例を示している。 |
| | 観点 3 | ・ギター&キーボード コードについて、ダイアグラム、コードを押さえた写真、和音の楽譜、押さえる鍵盤を示したキーボードのイラストを掲載している。 |
| | 観点 4 | ・各楽器単独で扱っているページ数は、箏（8）、三味線（7）、太鼓（6）、篠笛（5）、尺八（2）である。 |
| | 観点 5 | ・リコーダーのデジタルコンテンツとして、「掲載曲やサミングについての動画」「アーティキュレーションについて」「二つの奏法の音源」がある。 |
| 27 教芸 | 観点 1 | ・ギターにおける学習目標達成のための支援の具体例として姿勢とかまえ方について、正面からと側面からの写真を掲載し、説明している。その中で左手と右手の写真を掲載するとともに押さえ方について説明している。 |
| | 観点 2 | ・「アンサンブルセミナー」を 3 カ所に掲載し、音楽的な見方・考え方を働かせて考えたいポイントを示している。注目するポイントとして、音楽を形作っている要素を示し、キャラクターの吹き出しで、考える観点を例示しており、具体的に音楽的な見方・考え方を働かせやすい。 |
| | 観点 3 | ・ギター/キーボードそれぞれのコードについて、ダイアグラム、コードを押さえたイラスト、和音の楽譜、押さえる鍵盤を示したキーボードのイラストを掲載している。 |
| | 観点 4 | ・各楽器単独で扱っているページ数は、箏（10）、三味線（6）、太鼓（6）、篠笛（3）、尺八（3）である。 |
| | 観点 5 | ・リコーダーのデジタルコンテンツとして「演奏者の情報」「姿勢と構え方」「タンギングについての動画」「教材曲の伴奏の音源」「学びのコンパスアーティキュレーションを工夫しようのワークシート」がある。 |

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|--------|
| 教科名 | 美術 |
| 第 1 推薦 | 38 光村 |
| 第 2 推薦 | 116 日文 |

(美術) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|--|
| 9 開隆堂 | 観点 1 | ・ 巻末に「学びの資料」を設け、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。 |
| | 観点 2 | ・ 「発想・構想のヒント」のページを設け、デザイナーが創作活動をする際の具体的な言語活動や、生徒が学習の中で発想・構想する方法を示している。 ・ 発想・構想に向けて、ワークシートやアイデアスケッチ、生徒作品や作者の言葉を示している。 ・ 巻末に「鑑賞ってなんだろう」として、鑑賞活動の流れやポイント等について示している。 ・ キャラクターの吹き出しに、話し合いを促す記述を示している。 |
| | 観点 3 | ・ 生徒の作品や、生活や社会にある美術に関する写真を掲載するとともに、生徒の活動の様子を写真や吹き出しで示したり、生徒作品と作者の言葉で主題や表現の意図を示したりしている。 ・ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部を拡大したり、原寸大の図版で示したりしている。 |
| | 観点 4 | ・ 「美術 1」、「美術 2・3」で構成され、題材を分野等に分けて配列している。 ・ 「絵や彫刻など」 ・ 「デザインや工芸など」 ・ 「学びの資料」 【題材数の合計】 ・ 「美術 1」 11、「美術 2・3」 22 |
| | 観点 5 | ・ 各題材の下の「CONTENTS」に二次元コードを示している。 ・ 巻末資料の一部に、二次元コードを示している。 |
| 38 光村 | 観点 1 | ・ 巻末に「学習を支える資料」を設け、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。 ・ 別冊「美術 1 資料」に、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。 |
| | 観点 2 | ・ 美術 1 資料 に「発想・構想のために」のページを設け、生徒が学習の中で発想・構想する方法を、手書きの記入例、スケッチ例とともに思考ツールを見開き 2 ページで示してあり、言語活動を工夫しやすい。 ・ 発想・構想に向けて、アイデアスケッチ、生徒作品や作者の言葉を示している。 ・ 巻末資料に、鑑賞活動の流れやポイント等について示している。 ・ 題材名の下に、話し合いを促す記述を示している。 ・ 国語科とのつながりとして、「美術鑑賞を広げる言葉」を掲載している。 |

| | | |
|------------|-----|--|
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の作品や、生活や社会にある美術に関する写真を掲載するとともに、生徒の活動の様子を写真と学習活動の過程に分けて、写真や吹き出しでしめしたり、主題や表現の意図を作者の言葉で示したりしている。 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部を拡大したり原寸大の図版で示したりしている。また、紙質とページの大きさを変えて示している。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> 「美術1（別冊『美術1資料』）」、「美術2・3」で構成され、題材を分野等に分けて配列している。 「絵や彫刻など」 「デザインや工芸など」 「学びの資料」 <p>【題材数の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「美術1」 19、「美術2・3」 24と掲載されており、題材数が多い。 美術1に別冊で「資料つくってみよう見てみよう」があり、充実している。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> 各題材において、題材名の横に二次元コードで示している。 美術1の表現の各題材において、見開きページ右上部に、別冊「美術1資料」の二次元コードの関連ページを示している。 美術2・3の表現の各題材において、見開きページ右上部に、巻末資料「学習を支える資料一覧」の二次元コードの関連ページを示している。 |
| 116 日 文 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に「学習を支える資料」を設け、形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を掲載している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> 「発想・構想の手立て」のページを設け、アーティストが創作活動をする際の具体的な言語活動や、生徒が学習の中で発想・構想する際の方法を示している。 発想・構想に向けて、「表現のヒント」、アイデアスケッチ、生徒作品や作者の言葉、「造形的な視点」を示している。 巻頭に「オリエンテーション」として、鑑賞活動の対象やポイント等について示している。 題材名の下に「鑑賞の入り口」に問いを示している。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> 作家や生徒の作品の写真や、生活や社会にある美術に関する写真を掲載するとともに、表現のヒントを示している。また、生徒の活動の様子を写真で示したり、作者の言葉で主題や表現の意図を示したりしている。 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、折って立てられるようにしたり、作品の一部を原寸大の図版で示したりしている。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> 「美術1」、「美術2・3上」、「美術2・3下」で構成され、題材を分野等に分けて配列してあり、3冊に分けて丁寧に示されている。 「絵や彫刻など」 「デザインや工芸など」 「学びの資料」 <p>【題材数の合計】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「美術1」18、「美術2・3上」17、「美術2・3下」15と掲載されており、題材数が多い。 美術2・3が上下の2に分かれている。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> 各題材において、「学びのはじめに」に二次元コードを示している。 「表現のヒント」等に二次元コードを示している。 巻末資料「学習を支える資料」に、二次元コードを示している。 |

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|--------|
| 教科名 | 保健体育 |
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 224 学研 |

(保健体育) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|---------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・章扉で、「この章で学習すること」を示すとともに、「小学校で学習したこと」及び「高校で学習すること」を示している。 ・「見つける」として、日常経験や小学校で学習したことを基にした課題を提示し、「学習課題」において、本時の課題を設定している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「㊟」として、思考するための発問を設定するとともに、「活用する」として、習得した知識及び技能を活用し、思考する活動を設定している。 ・「広げる」として、学習したことを自分の生活にあてはめたり、調べたりする活動を設定している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「㊟」、「活用する」、「広げる」という流れで、1時間の学習の流れが共通して提示してあり、学習の流れを把握しやすい。 ・「読み物」として、体育理論で 2、保健分野で 15 の読み物資料を掲載してある。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容を、「保健編」、「体育編」の順で配列している。各章の終わりに、「章末資料」と「学習のまとめ」が位置付けられている。 ・主に章末に発展的な資料を掲載している。(記載数 19) |
| | 観点 5 | <p>マークが示す内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キーワード」：今日の学習のキーワードを示している。 ・「ポイント」：資料を読み取るためのポイントを示している。 ・「リンク①」：関連する学習内容がこの教科書にあることを示している。 ・「リンク②」：関連する学習内容がほかの教科書にあることを示している。 ・「スキル」：関連する学習内容が巻末スキルブックにあることを示している。 ・「発展」：学習指導要領には示されていない内容だが、必要に応じて学習できることを示している。 ・「読み物」：学習内容に関する読み物を示している。 ・「虫眼鏡」：検索ワードを基に調べる活動を示している。 ・「D」：学習を広がるデジタルコンテンツを示している。 <p>○キャラクターが学習のヒントやポイントを伝えている。</p> <p>○デジタルコンテンツ（動画）の掲載 13</p> |

| | | |
|-----------|-----|--|
| 4 大日本 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> ・章扉で、「この章で学習すること」を示すとともに、「小学校で学習したこと」「中学校で学習すること」及び「高校で学習すること」を示している。 ・「学習のねらい」として、学習を通して解決する課題を提示し、「つかもう」において、学習の導入を設定している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「つかもう」として、学習の初めの発問を設定するとともに、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」および「活用して深めよう」として、学習したことを生かして思考する活動を設定している。 ・章末に「学びを活かそう」として、その章で学習したことを生活に活かすための課題を設定している。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のねらい」、「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」、「活用して深めよう」という流れで、1時間の学習の流れが提示してある。 ・「トピックス」として、体育理論で8、保健分野で41の読み物資料を掲載している。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容を、「体育編」、「保健編」の順で配列している。各章の終わりに、「章末資料」と「学びを活かそう」、「学習のまとめ」が位置付けられている。 ・主に章末と「トピックス」に発展的な資料を掲載している。(記載数15) |
| | 観点5 | <p>○マークが示す内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料」：本文の内容をより理解したり、活動に取り組んだりする際に参考となる資料を示している。 ・「トピックス」：学習内容と関連が深い話題や読み物を示している。 ・「ミニ知識」：学習内容に関連した情報を、ミニ知識として示している。 ・「注意」：学習内容や生活のなかで、特に注意すべきことについて示している。 ・「リンク」「他教科」：関連した内容を学習するページや、他の教科とのつながりを示している。 ・「キーワード」：学習のポイントとなる大切な言葉を示している。 ・「家」：家で取り組みたい活動を示している。 ・「地域」：地域で取り組みたい活動を示している。 ・「発展」：学習指導要領には示されていない内容だが、興味・関心に応じて学習できるよう示している。 ・「WEB」：ウェブサイトにある動画や資料を使って学習できる場所を示している。 <p>○デジタルコンテンツ（動画）の掲載 12</p> |
| 50 大修館 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> ・章とびらで、「この章で学習すること」を示すとともに、「小学校で学習したこと」及び「高校で学習すること」を示している。 ・「課題をつかむ」として、これまでの経験や学習を基にした課題を提示し、「きょうの学習」において、本時の学習内容を設定している。 |

| | | |
|-----------|------|---|
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「課題をつかむ」として、気づきや思考を促す発問を設定している。 ・「章のまとめ」において、これまで学習したことをもとに、筋道を立てて説明する課題を設定している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「つかむ」、「身につける・考える」、「まとめる・振り返る」という流れで、1時間の学習の流れが提示してある。 ・「コラム」、「事例」、「保健の窓」「体育の窓」として、体育理論で9、保健分野で37の読み物資料を掲載している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容を、「体育理論」、「保健」の順で配列している。各章の終わりに、「章のまとめ」が位置付けられている。 ・章末の「特集資料」として発展的な内容の資料を掲載している。(記載数 13) |
| | 観点 5 | <p>マークが示す内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実習」：実際に体を動かしておこない方を身に付けるものを示している。 ・「コラム」「事例」：本文に関連した読みもの資料を示している。 ・「体育の窓」「保健の窓」：保健と体育を関連させて考える資料を示している。 ・「キーワード」：本文の重要語句を示している。 ・「よみ取る」：資料をよみ取るためのポイントを示している。 ・「関連」「他教科」：関連したページや他教科とのつながりを示している。 ・「発展」：学習指導要領には示されていない内容だが、教師の指示にしたがって学習できることを示している。 ・「ほり下げる」：本文に出てくることばなどをくわしく解説している。 ・「二次元コード」：「動画コンテンツ」や「Web 保体情報館」「Web ワークシート」「保体クイズにトライ」にアクセスできる。 <p>○デジタルコンテンツ（動画）の掲載 11</p> |
| 224 学研 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・章の扉で、その章の学習内容を示すとともに、「小学校で学習したこと」及び「高校で学習すること」を示している。 ・「ウォームアップ」として、事例や情報などの問いから課題を提示し、「学習の課題」で、1時間の学習を通して身に付けることや、考えたり、判断したりすることを提示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「エクササイズ」として、学習した知識及び技能や資料などの情報を基に、思考したり、話し合ったりする活動を設定している。 ・1時間の最後に、「学びを生かす」として、身に付けた知識及び技能を活用する課題や活動を設定している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ウォームアップ▶課題の発見」、「学習の課題」、「本文と資料」、「エクササイズ⇒課題の解決」、「学びを生かす▶学びの活用」という流れで、1時間の学習の流れが提示してある。 ・「コラム」として、体育理論8、保健分野で21の読み物資料を掲載している。 |

| | |
|------------|---|
| <p>観点4</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容を、「体育編」、「保健編」の順で配列している。各章の終わりに「探究しようよ！」と「章のまとめ」が、学年末には「〇年の学習の終わりに」が位置付けられている。 ・主に章末の「探究しようよ！」で発展的な活動を設定しており、(記載数 17) 興味を引く工夫がある。記載数も充実している。 |
| <p>観点5</p> | <p>マークが示す内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キーワード」：本文中の太字を中心とした代表的な重要語句を示している。 ・「技能」：方法を知ったり、身に付けたりする内容を示している。 ・「実習」：実際に行って、方法や技術を理解・習得する学習内容を示している。 ・「関連」：関連する学習内容へのガイドを示している。 ・「情報サプリ」：学習内容に関連したミニ知識を示している。 ・「リンク」：参考になるウェブサイトへのガイドを示している。 ・「探究」：「探究しようよ！」へのガイドを示している。 ・「発展」：学習指導要領には示されていない内容だが、興味・関心などに応じて取り組む「発展的な学習内容」を示している。 ・「協働」：教え合い学び合う課題を示している。 ・「コラム」：学習内容に関連した読み物資料を示している。 ・「二次元コード」：教科書サイトにアクセスできる。 <p>○キャラクターが学習のヒントやポイントを伝えている</p> <p>○デジタルコンテンツ（動画）の掲載 11</p> |

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| 教科名 | 技術・家庭（技術分野） |
|--------|-------------|
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 9 開隆堂 |

(技術・家庭 [技術分野]) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|---------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容 A～内容 C の第 3 章及び内容 D の第 4 章の冒頭において、技術の概念の理解を促すために、「技術の最適化」という項目があり、これまでの学習を振り返り、自分の問題解決と社会における問題解決の共通点と違いについて考えることを促す記述や、生徒のつぶやき等を掲載している。 ・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「ポイント」の囲みが 37 か所あり、ポイントを理解しやすい。また、問題解決に取り組むときに必要となる基礎的な技能を確認させるため、「テックラボ」を 18 ページ掲載している。 ・個別最適な学び、協働的な学びに対応することができる二次元コードを 412 と多数掲載している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の冒頭「技術の見方・考え方」において、身近な技術の具体例を取り上げるとともに、技術に込められた工夫や、技術を最適化する際に着目する視点について掲載している。 ・内容 A～内容 C の第 2 章及び内容 D の第 2 章、第 3 章において、実習例を「問題解決例」として 53 事例取り上げ、「問題の発見」「課題の設定」の具体例を示すとともに、そのうち、15 事例において、技術による問題の解決の学習過程の具体例を掲載している。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容 A～内容 C の第 3 章及び内容 D の第 4 章において、社会で開発されている新しい技術について具体例を挙げるとともに、「未来の Technology」において、これまでの学習を踏まえ、これからの社会や生活で技術を改良、応用するとき、どのようなことを考えていきたいか考えさせるためのワークシートを掲載している。 ・「技術分野の学習を終えて」において、これまでの学習を振り返り、これから技術とどのように関わっていきたいか考えをまとめさせる記述を掲載するとともに、社会の中で技術に携わる人へのインタビュー等を掲載している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス的内容として 14 ページ、「材料と加工の技術」56 ページ、「生物育成の技術」42 ページ、「エネルギー変換の技術」56 ページ、「情報の技術」62 ページ、「総合的な問題解決」6 ページ。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の各教科等の学習内容との関連については、「リンク」マークを多数用いて、教科、内容等を示しており、関連を図りやすい。(28) |

| | | |
|------|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の各教科等の学習内容との関連については、「リンク」マークを用いて、教科、内容等を示している。(5) |
| 6 教図 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容A～内容Cの第3章及び内容Dの第4章の冒頭において、技術の概念の理解を促すために、「技術のプラス面とマイナス面」という項目があり、これまでの学習を振り返り、技術の役割や影響について考えたり、技術のプラス面とマイナス面を見極めたりすることを促す記述や、生徒のつぶやき等を掲載している。 ・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「ポイント」マークを64か所(内、スキルアシスト16か所)掲載している。 ・「安全」マークを48か所(内、スキルアシスト23か所)、「衛生」マークを8か所(内、スキルアシスト1か所)掲載し、実習などにおける安全や衛生のポイントをまとめ、生徒の注意を喚起している。 ・個別最適な学び、協働的な学びに対応することができる二次元コードを121掲載している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の冒頭において、生活や社会を支える技術の具体例を取り上げるとともに、技術に込められた工夫について掲載している。 ・技術の最適化について意識できるよう、各内容とも1章において、問題を解決する工夫や技術の工夫について調べ、考えさせる項目があり、技術の最適化について具体的な事例を掲載している。 ・内容A～内容Cの第2章及び内容Dの第2章、第3章において、実習例を「題材例」として21事例取り上げ、製作、制作、育成に必要な手順を示すとともに、そのうち、8事例において、技術による問題の解決の学習過程の具体例を掲載している。また、各内容に基礎技能を身に付け、次の本題材の製作・制作につながる練習題材「プチ問題解決」を設けている。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容A～内容Cの第3章及び内容Dの第4章において、社会で開発されている新しい技術について具体例を挙げるとともに、「やってみよう」において、技術の上手な活用方法や、新しく開発したい技術、これからどのように技術と向き合っていきたいか考えさせるためのワークシートを掲載している。 ・「夢をかなえる技術」において、これまで学んだ技術を振り返り、それらの技術を組み合わせて開発された新たな技術を具体例で掲載するとともに、技術関係の専門高等学校に進んだ先輩や、様々な分野の日本の技術と、その技術を支える人々の想いを写真等で掲載している。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス的内容として12ページ、「材料と加工の技術」65ページ(内、スキルアシスト12ページ)、「生物育成の技術」50ページ(内、スキルアシスト11ページ)、「エネルギー変換の技術」62ページ(内、スキルアシスト5ページ)、「情報の技術」81ページ(内、スキルアシスト10ページ)、「夢をかなえる技術」14ページ。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の各教科等の学習内容との関連については、「関連」マークを用いて、教科を示している。(11) |

| | | |
|-------|-----|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の各教科等の学習内容との関連については、「関連」マークを用いて、教科を示している。(8) |
| 9 開隆堂 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容A～内容Dの3の冒頭において、技術の概念の理解を促すために、各内容において技術の学習を振り返らせたり、技術の学習と社会とのつながりを考えさせたりする項目があり、これまでの学習を振り返ったり、技術の見方・考え方について確認したりすることを促す記述や図等を掲載している。 ・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「作業のポイント」の囲みを18か所、学習の参考になる内容や資料・解説として、「参考」マークを63か所掲載している。 ・個別最適な学び、協働的な学びに対応することができる二次元コードを400と多数掲載している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> ・各内容の冒頭において、製品の進歩の具体例を取り上げるとともに、技術に込められた工夫や、技術を最適化する際に着目する視点について掲載している。 ・内容A～内容Dの2において、実習例を「実習例」として32事例取り上げ、技術による問題の解決の学習過程の具体例を掲載している。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容A～内容Dの3において、社会で開発されている新しい技術について具体例を挙げるとともに、「やってみよう」において、新しい技術について調べ、それがどのようなものなのか、どのような使い方が考えられるか、どうやったら広く活用されるようになるか考えさせるための記述を掲載している。 ・「技術分野の学習を終えて」において、3年間の学習を振り返り、その成果や反省、将来に向けて生かそうとすることなどを考えさせる記述を掲載するとともに、社会が抱える問題と、それを解決している新しい技術の具体例を掲載している。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス的内容として20ページ、「材料と加工の技術」74ページ、「生物育成の技術」46ページ、「エネルギー変換の技術」48ページ、「情報の技術」68ページ。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の各教科等の学習内容との関連について、「他教科」マークを用いて、教科、内容等を示している。(4) ・小学校の各教科等の学習内容との関連については、「小学校」マークを用いて、教科、内容等を示している。(4) |

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|-------------|
| 教科名 | 技術・家庭（家庭分野） |
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 9 開隆堂 |

〔技術・家庭 [家庭分野]〕 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|---------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | ・実践的・体験的な学習を実践するための工夫として、日常食の調理における調理実習を 43 事例、布を用いた物の製作を 14 事例掲載している。 |
| | 観点 2 | ・生活の中から課題を見いだすための工夫として、編の導入には課題設定の記入欄を設け、自分の知りたいことやできるようになりたいことを記入することで、生活の課題と実践へとつなげている。編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを掲載している。 |
| | 観点 3 | ・「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせるための工夫として、「生活の営みに係る見方・考え方」を「家庭分野のガイダンス」において、マークやイラストを用いて説明している。各編の導入においては、関連する見方・考え方をマークやキーワードで示している。「生活の営みに係る見方・考え方」の 1 つの視点である「持続可能な社会の構築」においては、各編にその内容を掲載している。 |
| | 観点 4 | ・他教科等と関連させて学習を進めるための工夫として、「リンク」マークを多数示し、教科名、単元・題材概要を示している。技術分野の学習内容との関連については「リンク」マークを示し、題材概要を示している。他教科や技術分野との関連を図りやすい |
| | 観点 5 | ・デジタルコンテンツの活用として、動画、シミュレーションなどにつながる二次元コードを表示している。特に動画が多く掲載されており、理解しやすい。 |
| 6 教図 | 観点 1 | ・実践的・体験的な学習を実践するための工夫として、日常食の調理における調理実習を 45 事例、布を用いた物の製作を 9 事例掲載している。 |
| | 観点 2 | ・生活の中から課題を見いだすための工夫として、節の導入には自分の生活を見つめるきっかけとなるコーナーを設定している。章末の「学習のふり返し」では、思考・判断・表現に関わる問いを掲載している。 |
| | 観点 3 | ・「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせるための工夫として、「生活の営みに係る見方・考え方」を「ガイダンス「つなぐ、つながる」×家庭分野」において、キーワードを用いて説明している。各項目におい |

| | | |
|----------|-----|---|
| | | <p>ては、生徒と教師の対話の場面等を「見つめる」「見つめてみよう」で示し、吹き出し等を用いて、生活の営みに係る見方・考え方に気付かせている。「生活の営みに係る見方・考え方」の1つの視点である「持続可能な社会の構築」においては、消費生活と環境問題とのつながりを取り上げ、関連する写真や資料にSDGsアイコンを用いて示している。</p> |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> 他教科等と関連させて学習を進めるための工夫として、「関連」マークを示し、教科名、分野、単元・題材概要を示している。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツの活用として、ワーク、予習・復習に活用できる動画などにつながる二次元コードを表示している。 |
| 9 開隆堂 | 観点1 | <ul style="list-style-type: none"> 実践的・体験的な学習を実践するための工夫として、日常食の調理における調理実習を51事例、布を用いた物の製作を11事例掲載している。 |
| | 観点2 | <ul style="list-style-type: none"> 生活の中から課題を見いだすための工夫として、編の導入には生徒の身近な話題を用いている。編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを掲載している。 |
| | 観点3 | <ul style="list-style-type: none"> 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせるための工夫として、家庭分野の「ガイダンス」において、生活の見方・考え方の視点を示している。生活の営みに係る見方・考え方の1つの視点である「持続可能な社会の構築」においては、「ガイダンス」で詳しく説明され、各編にその内容が掲載されている。 |
| | 観点4 | <ul style="list-style-type: none"> 他教科等と関連させて学習を進めるための工夫として、「他教科・他分野との関連マーク」を右ページ上部に示し、教科、分野、単元、題材概要を示している。 |
| | 観点5 | <ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツの活用として、資料や動画などにつながる二次元コードを表示している。特に資料コンテンツが多く掲載されている。 |

令和 7 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|-------|
| 教科名 | 英語 |
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 38 光村 |

(英語) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|---|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 目次に各 Unit の「活動目標 (GOAL)」を提示している。 単元である Unit ごとに目標を提示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題を取り上げている単元における言語活動数 (聞くことの活動 2 読むことの活動 6 話すこと [やりとり] の活動 3 話すこと [発表] の活動 3 書くことの活動 3) が設定されており、特に読むことの活動が多く、長文に触れる機会が多い。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く問い「Unit Question」を単元名として設定し示している。 各単元末の「Unit Activity」の「STEP 3」に「Unit Question」を設定し、自分の考えを書くとともに、「CHECK」において、4 段階の振り返りを設定している。(復習単元 Unit 0 を除く) 「Stage Activity」に「CHECK」を設定し、4 段階で振り返りを行うとともに、巻末口絵「CAN-DO リスト」で各 Stage の学習について、領域ごとに 4 段階で振り返りを行う。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語科との接続を図った単元等の構成・配列を設定しており、円滑な接続が図れるような工夫がある。 *資料編に「英語の音と文字」を掲載している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 「巻末付録」として、次の資料を掲載している。(第 1 学年) <ul style="list-style-type: none"> My Diary (絵日記を書こう) 帯活動用 Small Talk 即興で伝え合おう 語順カード CAN-DO リスト |
| 9 開隆堂 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 単元である PROGRAM 内のコーナーごとに目標「GOALS」を提示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題を取り上げている単元における言語活動数 (聞くことの活動 7 読むことの活動 4 話すこと [やりとり] の活動 3 話すこと [発表] の活動 1 書くことの活動 3) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 「GOALS」として、単元の各コーナーの目標を示している。 各単元内の「Scenes for Basic Dialogs」「Review & Retell」及び「Action」の「できたかな? GOAL」において、3 段階の振り返りを設定している。 「Our Project」の「Go! さあ、本番だ!」の「GOALS の達成度を振り返りましょう。」において、3 項目について 3 段階の振り返りを設定している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語科との接続を図った単元等の構成・配列を設定している。 |

| | | |
|-----------|------|--|
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「巻末資料」として、次の資料を掲載している。(第1学年) 1 辞書の使い方 2 英語の書体 3 クイックQ&A 4 ローマ字(ヘボン式) 5 不規則動詞活用表 6 英語の音声 7 英語のつづり字と発音 8 単語と熟語 9 CAN-DO リスト 10 Small Talk 表現集 11 アクションカード①～④ 12 Small Talk の流れ |
| 16 三省堂 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・目次に各 Lesson の「Goal Activity (活動の内容)」を示している。 ・単元である Lesson ごとに目標「Goal Activity」を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な話題を取り上げている単元における言語活動数(聞くことの活動 7 読むことの活動 4 話すこと[やりとり]の活動 2 話すこと[発表]の活動 2 書くことの活動 4) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Lesson Preview」として、単元のテーマ及び各 Part における Scene の一場面のイラストを示すとともに、イラストの一枚に関連する日本語の問いを、独自のキャラクターとともに吹き出しで示している。また、単元終末の言語活動である「Goal Activity」の内容を掲載ページの画像の一部とともに示している。 ・各単元末の「Goal Activity」の「ふり返し」において、2項目について振り返りを設定している。 ・「Project」の「ふり返し」において、2項目について振り返りを設定している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語科との接続を図った単元等の構成・配列を設定している。 ＊資料に「Sounds つづりと発音」を掲載している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「資料」として、次の資料を掲載している。(第1学年) ・Classroom English ・Further Reading 1 ・Further Reading 2 ・ローマ字表【ヘボン式】 ・英語の文字 ・Sounds ・基本文のまとめ ・Audio Scripts ・不規則動詞活用表 ・いろいろな単語 ・単語の意味 ・Tips for Small Talk ・Role-play Sheet ・What Can I Do? |
| 17 教出 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元である Lesson ごとに「Goal (内容理解) (活動)」を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な話題を取り上げている単元における言語活動数(聞くことの活動 4 読むことの活動 2 話すこと[やりとり]の活動 7 話すこと[発表]の活動 1 書くことの活動 1) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Goal」として、単元の目標を「内容理解」と「活動」に分けて示している。 ・各単元末の「Lesson○をふり返ろう」において、「内容理解」と「活動」について4段階の振り返りを設定している。 (復習単元 Review Lesson を除く) ・「Project」の「Project○をふり返ろう」において、「Goal」の達成度について4段階の振り返りを設定している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語科との接続を図った単元等の構成・配列を設定している。 ＊巻末資料に「つづりと発音～基本的なつづりと発音の関係を覚えよう～」を掲載している。 |

| | | |
|-----------|------|---|
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「巻末資料」として、次の資料を掲載している。(第1学年) ・語形変化のまとめ ・不規則動詞変化表 ・重要構文復習リスト ・Think & Try! 活動例 ・分野別用語集 ・Word List ・つづりと発音 ・Can-Do 自己チェックリスト |
| 38 光村 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・目次に各 Unit の「単元の目標」を示している。 ・単元である Unit ごとに関連する領域別の目標「Goal」を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な話題を取り上げている単元における言語活動数(聞くことの活動7 読むことの活動4 話すこと[やりとり]の活動4 話すこと[発表]の活動0 書くことの活動4) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Goal」として、単元の目標を「Read」と「Speak」に分けて示している。 ・各単元末の「Goal 振り返り」において、2項目について振り返りを設定している。 ・「You Can Do It !」の「Goal 学期の振り返り」において、4段階の振り返りを設定している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語科との接続を図った単元等の構成・配列を設定しており、円滑な接続が図れるような工夫がある。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「巻末付録」として、次の資料を掲載している。(第1学年) ・英語の学び方ガイド ・英語の文字・文の書き方 ・ローマ字表 ・英語のしくみ ・Word List ・Unit1-3 本文の全文 ・基本文のまとめ ・CAN-DO List ・思考の地図 ・CAN-DO List が視覚的に工夫されており、学習の流れが把握しやすい。 |
| 61 啓林館 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元である Unit ごとに関連する目標「Unit Goal (Input) (Output)」を示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な話題を取り上げている単元における言語活動数(聞くことの活動10 読むことの活動3 話すこと[やりとり]の活動4 話すこと[発表]の活動3 書くことの活動5) |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Unit Goal」として、単元の目標を「Input」と「Output」に分けて示している。 ・各単元末の「Check」において、「Input」と「Output」について4段階の振り返りを設定している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語科との接続を図った単元等の構成・配列を設定している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「巻末付録」として、次の資料を掲載している。(第1学年) ・Listening Script ・発音とつづり ・基本文のまとめ ・ローマ字表 ・筆記体 ・Word Box ・Word List ・CAN-DO List |

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

| | |
|------|-----------------|
| 観点 1 | 知識及び技能の習得 |
| 観点 2 | 思考力、判断力、表現力等の育成 |
| 観点 3 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 4 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 5 | 内容の表現・表記 |

| | |
|--------|-------|
| 教科名 | 道徳 |
| 第 1 推薦 | 2 東書 |
| 第 2 推薦 | 38 光村 |

(道徳) 各教科書の主たる特徴及び意見

| 発行者名 | 観点 | 主 たる 特 徴 |
|----------|------|--|
| 2 東書 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの学習の流れ等「①気づく」「②考える」「③深める・広げる」を、イラストや吹き出しとともに見開き 2 ページで示している。 ・ 発問は、教材文の終わりの「考えてみよう」「見つめよう」のコーナーにイラストとともに 2～3 つ示しており、考えるポイントを把握しやすい。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文の終わりの「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」等に、教材における話合いを促す発問を示している。 ・ 巻末に、授業の取組や心に残った教材等を記入するページ「自分の学びをふり返ろう」を設けているとともに、ワークシートが付けられていて、思考を深めやすい。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決学習を取り入れた工夫では、「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 分量は、AB 判 202～210 ページある。教材数は、C が 42 教材、その他は、A21、B21、D21 と配分されている。 ・ 現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした 3 つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」を設け、目次に色付けして示し、扉ページを設けている。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末に、各学年、「教材一覧表」を見開き 2 ページで示している。また「テーマでふり返ろう」を 1 ページ、「自分の学びをふり返ろう」「心情円」を設けている。 ・ 教材の内容を理解させる工夫として、4 つの視点をマークで示しており、「Plus」「つぶやき」「SDG s」「いじめのない世界へ」「いのちを考える」等のマークを設定し、二次元コードを示している。 |
| 17 教出 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科で考えていきたい 7 つのテーマを教材名等とともに 1 ページに示している。 ・ 発問は、冒頭の教材名の下に 1 つ、また教材文の終わりに「学びの道しるべ」として、3 つ示している。 |

| | | |
|-----------|------|---|
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、教材における話合いを促す発問を示している。 巻末に、一年間で学んできたことをもとにして考えるページ「「よりよく生きる」って、どういうことだろう？」を設けている。 巻末に、心に残った教材や一番考えさせられた教材等を記入するページ「道徳科の学びを振り返ろう」を設けている。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を取り入れた工夫では、教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした2つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめをなくそう」を設け、目次に色付けして示している。【1年 P22～33】 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に、各学年、「内容項目別教材一覧表」を1ページで示し、「一年間の道徳科で学んだこと」を見開き2ページ、「道徳科の学びを振り返ろう」「1年間の道徳科の学びを振り返ろう」を設けている。 教材の内容を理解させる工夫として、4つの視点をマークで示しており、「導入の問い」「学びの道しるべ」「ひろば」「やってみよう」「SDGs」等のマークを設定し、二次元コードを示している。 |
| 38 光村 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 「道徳で学ぶ22のキーワード」に、4つの視点ごとの1年間で学ぶ内容項目をイラスト等とともに見開き2ページで示している。 発問は、教材文の終わりの「考えよう」のコーナーに、イラストとともに1～4つ示しており、考えるポイントを把握しやすい。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 教材文の終わりに、教材における話合いを促す発問をしている。 巻末折り返しに、心に残ったことや1年間の学習の振り返り等を記入するページ「まなびの記録」を設けている。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を取り入れた工夫では、教材の終わりに学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした3つの教材でユニット化した「いじめを許さない心について考える」を設け、目次に緑色の下線で示している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に、各学年、「教材別テーマ一覧」を見開き2ページで示している。また「まなびの道具箱」を見開き2ページ、「まなびの記録」を設けてあり、充実している。 教材の内容を理解させる工夫として、4つの視点をマークで示しており、「やってみよう」「チャレンジ」「まなびをプラス」「コラム」「SDGs」「教科」のマークを設定し、二次元コードを示している。 |
| 116 日文 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 「ミニ教材で考えてみよう」に、3つの学習の流れ等をイラストや吹き出しとともに見開き2ページで示している。 発問は、教材文の終わりや教材文に続く「考えてみよう」「自分に+1」のコーナーに2つ示している。 |

| | | |
|-----------|------|--|
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 教材文の「学びを深めよう」に、話し合う学習活動、話合いのポイントや工夫例を示している。 別冊「道徳ノート」に、自分の考えや友達の意見等を書く欄を設けている。 別冊「道徳ノート」の巻末に、心に残っている授業や考えたこと等を記入するページ「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」を設けている。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を取り入れた工夫では、「学びを深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした2つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめと向き合う」を設け、目次に色付けして示している。【1年 P28～41】 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に、各学年、「内容項目別教材一覧」を見開き2ページで示している。また、別冊「道徳ノート」には、各学年、道徳科で学んだことを振り返ってみよう」を設けている。 教材の内容を理解させる工夫として、4つの視点をマークで示しており、「考えてみよう」「自分に+1」「あすへのメッセージ」「視野を広げて」「学びを深めよう」等のマークを設定し、二次元コードを示している。 |
| 224 学研 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> 「よりよく生きるための22の鍵」に、4つの視点ごとの1年間で学ぶ内容項目や教材名等を見開き2ページで示している。 発問は、教材文の終わりに「考えよう」のコーナーに、マークとともに2つ示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> 教材文の終わりの「深めよう」に、教材における話合いを促す発問を示している。 巻末に、心に残った言葉や友達や身近な人に伝えたい言葉等を記入するページ「未来への扉」を設けている。 巻末に授業での取組や心に残った授業等を記入するページ「学びの記録」「学びのメモ」を設けている。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習を取り入れた工夫では、「深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした複数の教材を特設ページとともに年間を通して配置している。 巻頭の「さまざまなテーマで学ぼう」に、「いじめ防止」をテーマとして示すとともに、いじめの問題を扱う教材には、「いじめ防止」マークを使い、該当ページに示している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> 巻末に、各学年、「いろいろなテーマから学ぶ」を見開き2ページで示している。また「学びの記録」「学びのメモ」を設けている。 教材の内容を理解させる工夫として、4つの視点をマークで示しており、「考えよう」「クローズアップ」「深めよう」等のマークを設定し、二次元コードを示している。 |

| | | |
|------------|------|---|
| 232 あか図 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科について、「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「自分の生き方を考える」の3つをイラストとともに見開き2ページに示している。 ・発問は、教材文の終わりに「いろいろな見方で考える」「自分を見つめて考える」「考えを深める」のコーナーに2つ示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材文の終わりの「いろいろな見方で考える」等に、教材における話合いを促す発問を示している。 ・巻末に、授業での取組や心に残った授業等を記入するページ「学習の記録」「1年間の学習の記録」を設けている。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習を取り入れた工夫では、「マイ・プラス」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「「いじめ」を考える」を設け、目次に色付けして示している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に、各学年、「内容一覧」を1ページで示している。また「学習の記録」「1年間の学習の記録」を設けている。 ・教材の内容を理解させる工夫として、4つの視点をマークで示しており、「Thinking」「マイ・プラス」「SDGs」等のマークを設定し、二次元コードを示している。 |
| 233 日科 | 観点 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科について、「自分の考え、意見を言おう」「友達の考え、意見をしっかり聞こう」「自分と違う考え、意見も認め、きちんと聞こう」の3つをイラストとともに見開き2ページで示している。 ・発問は、教材文の終わりに2～3つ示している。 |
| | 観点 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材文の終わりに、「memo」の欄を設けている。 ・教材の終わりの「考えよう」「深めよう」に、教材における話合いを促す発問を示している。 ・巻末に、自分自身が思いついた「ウェルビーイング」のキーワードを書く欄「ウェルビーイングカード」を設けている。 |
| | 観点 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりの「考えよう」「深めよう」に学習過程の例を示している。 |
| | 観点 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な課題等を踏まえ、いじめの問題をテーマとした複数の教材を配置している。 ・巻頭の「さまざまなテーマから考えを深めよう」に、「いじめ・人権」をテーマとした教材を示している。 |
| | 観点 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・巻末に、各学年、「ウェルビーイングカードとは」を1ページで示している。またウェルビーイングカードを設けている。 ・教材の内容を理解させる工夫として、4つの視点をマークで示しており、「ウェルビーイングカードマーク」を設定し、二次元コードを示している。 |